

1995

# 県政ホットナウ1

## 21世紀を担う青年集合 第15回岩手青年の船

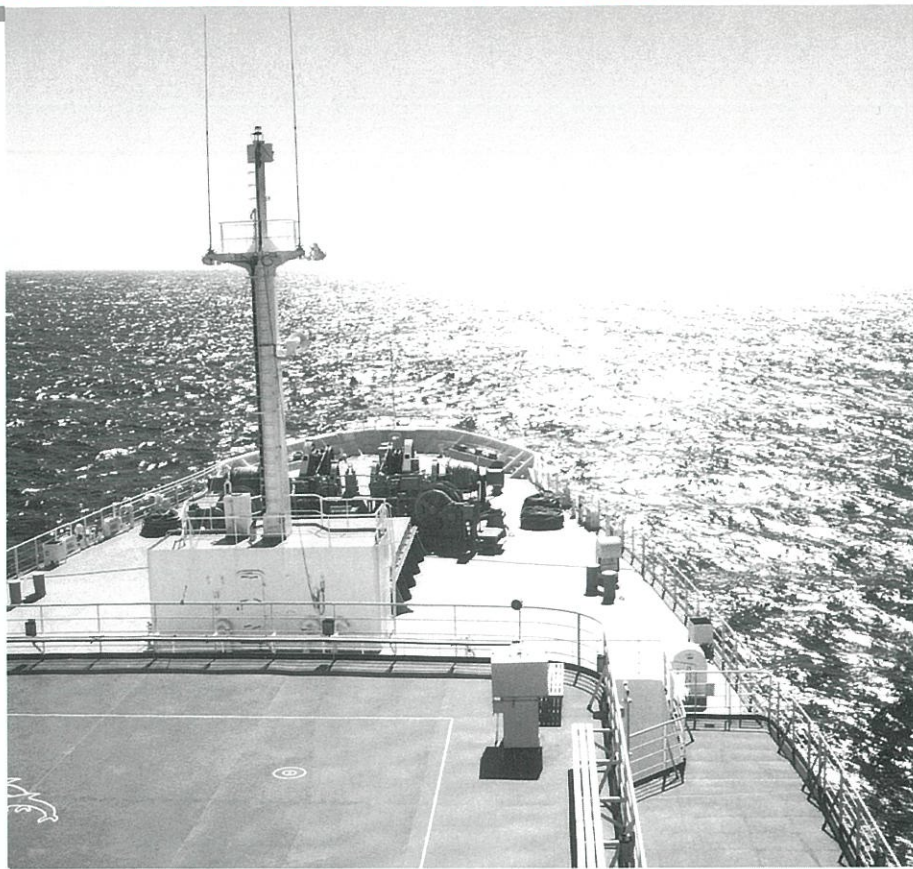
1月13日、第15回青年の船は、岩手各地から集まった青年317人を乗せ、15日間の研修へと釜石港を船出した。

団員は、郷土岩手の未来や国際交流について語り合い、運動会やクラブ活動を仲間とともに楽しんだ。

最初の寄港地沖縄では、戦争の悲惨さ、平和の尊さをじかに感じ、マニラや香港では、本では知り得ないアジアの仲間について理解する機会を得た。

これら貴重な体験をした青年たちは、それぞれの地域や職場に戻り、21世紀の岩手をつくる担い手となることが期待される。

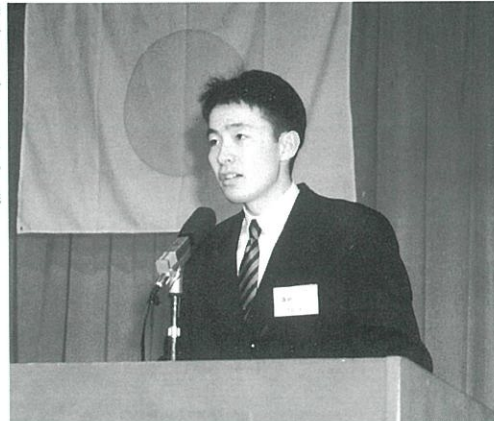
研修の15日間で振り返る。



▼地域の課題を団長（高橋副知事）と語る。産業や教育などさまざまな分野で団員から質問が飛び出す（17日）



▶アルベールビル冬季オリンピック金メダリスト三ヶ田礼一さんは、自分の夢をどのように実現していったかを講義。ほかにも地域づくりや国際交流などの講義が行われた（14日）



◀自分たちが住む地域に自ら何ができるのか真剣に討議された地域別研修（18日）

▶まさに船ならではの洋上運動会。若者たちのエネルギーが爆発（18日）



▲沖縄では、平和祈念資料館やひめゆりの塔を訪ね、戦争の悲惨さ、平和の尊さを改めて考える機会となった（16日・平和祈念資料館）



▼第二次世界大戦時の郷土出身兵士を慰霊する岩手の塔を訪ね、めい福を祈る（16日・沖縄）



▶香港では、有名な観光地を訪ねる。異なった文化の中で成長を続ける国を肌で感じる機会に（22日）



▲マニラでは、農業、企業、教育、福祉・援助に分かれて見学。隣国の文化を知る機会となった（20日）

▶船上にフィリピン青年を招いての交歓交流会。言葉は違っても、すぐに友達に（19日）

▼団員の一人からの発案で、乗船中に起きた阪神・淡路大震災の被災者に義援金を送ることに。集まった義援金525,370円を団長に託す（21日）

